

専門分野Ⅱ

科目名	成人看護学概論			担当者	田所 亜由美		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	成人各期にある人の特性を理解し、成人期に起こりやすい多様な健康課題について家族を含めて対応する看護の役割と健康の保持・増進のための看護を学ぶ。						
到達目標	1. 成人各期にある人の特性・健康問題、健康の保持・増進について説明することができる。 2. 成人への看護アプローチの基本を説明することができる。 3. 成人の看護に有用な理論や概念を理解し、看護への応用について考えることができる。 4. 成人の健康レベルに対応した看護について説明することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	成人期にある人の理解① 成人の特徴と生活	講義
2	2	成人期にある人の理解② 発達課題と発達危機 GW	講義・演習
3	2	成人期にある人の理解③ 青年期、壮年期、向年期 発表	演習
4	2	成人を取り巻く社会情勢(人口動態、疾病構造)	講義
5	2	成人の健康問題、健康課題①(健康を脅かす要因)	講義
6	2	成人の健康問題、健康課題②(成人の生活と健康を守るシステム)	講義
7	2	成人への看護アプローチ①(アンドラゴジー)	講義
8	2	成人への看護アプローチ②(行動変容アプローチ)	講義
9	2	成人看護に有用な理論・概念 GW (ヘルスプロモーション・ストレスコーピング)	講義・演習
10	2	成人看護に有用な理論・概念 GW (危機理論/病みの軌跡/セルフマネジメント/エンパワーメント)	講義・演習
11~13	6	健康レベルに応じた患者の理解と看護①~③ GW	演習
14	2	健康レベルに応じた患者の理解と看護④ 発表	演習
15	2	まとめ	講義

教科書・参考図書	「系統看護学講座 成人看護学① 成人看護学総論」医学書院
成績評価方法	試験50%、レポート30%、授業の取り組み(提出資料・意見・話し合い)20%
履修上の注意点	主体的な取り組みを期待します。2年次の成人看護学援助論との関連が深い科目です。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
13年間病院にて看護師として勤務あり

専門分野Ⅱ

科目名	老年看護学概論			担当者	渡辺 繭美		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	高齢者の特性を統合的に捉え、ライフサイクルにおける老年期とその健康課題を学ぶ。高齢者を取り巻く社会環境から、保健・医療・福祉の動向と諸問題を学び、看護役割を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴とライフサイクルにおける老年期とその健康課題について説明することができる。 2. 高齢者の生活と高齢者を支える保健・医療・福祉の動向を説明することができる。 3. 多様な生活の場で展開する高齢者の看護を説明することができる。 4. 老人疑似体験をとおして高齢者の理解をすることができる。 5. 学習の場に積極的に参加することができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	老いるということ、老いを生きるということ	講義
2	2	老年看護の基盤	講義
3	2	高齢者の理解	講義
4	2	高齢者の理解	講義
5	2	高齢者とヘルスプロモーション	講義
6	2	高齢者をとりまく社会	講義
7	2	高齢者をとりまく社会	講義
8	2	高齢者看護の基本	講義
9	2	高齢者看護の基本	講義
10	2	高齢者とのコミュニケーション	講義
11	2	高齢者理解：老人疑似体験	演習
12・13	4	高齢者をとりまく社会	講義
14	2	人生最終段階にある高齢者の看護 エンド・オブ・ライフケア	講義
15	2	老年期における倫理的な課題	講義

教科書・参考図書	「系統看護学講座 老年看護学」医学書院
成績評価方法	試験80%、演習・課題20%
履修上の注意点	動画(ナーシングチャンネル)視聴あり。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
11年間病院にて看護師として勤務あり

専門分野Ⅱ

科目名	小児看護学概論			担当者	小貫 三佳		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	小児看護における目標や役割、倫理、権利を学び、看護の特徴を理解する。小児の成長発達や小児を取り巻く社会環境と養護について理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護における目標や役割を説明することができる。 2. 小児看護における倫理、権利を考えることができる。 3. 子どもを取り巻く社会・環境の理解をし、看護の特徴を説明することができる。 4. 小児の成長と発達を説明することができる。 5. 子どもの発達段階に応じた看護を考えることができる。 6. 常に自己の課題を考えながら達成に向けて取り組むことができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	子どもを取り巻く社会・環境の理解 こども観 ビデオ「小児」	講義
2	2	子どもを取り巻く社会・環境の理解 子どもの権利、小児看護の倫理	講義
3	2	子どもを取り巻く社会・環境の理解 子どもの保健、医療、福祉の動向	講義
4	2	子どもを取り巻く社会・環境の理解 子どもの看護の特徴 ビデオ「子ども病院」	講義
5	2	子どもの成長と発達 エリクソン、ピアジェ 看護理論オレム：事例を通して	講義
6	2	子どもの成長と発達 乳児の発達 課題：発達カレンダー	講義
7	2	子どもの成長と発達 乳児の発達 ビデオ「あかちゃんの1日」	講義
8	2	子どもの成長と発達 乳児の発達 離乳食 課題：発達アセスメント	講義・演習
9	2	子どもの成長と発達 乳児の発達	講義
10	2	子どもの成長と発達 幼児の発達 ビデオ「さくらんぼ坊や」	講義
11	2	子どもの成長と発達 幼児の発達 ビデオ「さくらんぼ坊や」	講義
12	2	子どもの成長と発達 幼児の発達 ビデオ「赤ちゃんがやってきた」 課題：発達アセスメント	講義・演習
13	2	子どもの成長と発達 学童の発達	講義
14	2	子どもの成長と発達 思春期の発達	講義
15	2	子どもの発達段階に応じた看護 まとめ	講義

教科書・参考図書	「ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護」メディカ出版
成績評価方法	試験80%、演習・課題20%・演習への積極的参加を含む
履修上の注意点	動画(ナーシングチャンネル)視聴あり。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
7年間病院にて看護師として勤務あり

専門分野Ⅱ

科目名	母性看護学概論			担当者	宮本 康子		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	女性のライフサイクル各期における看護、リプロダクティブ・ヘルスに関する看護、妊娠・分娩・産褥期および早期新生児における看護の対象と基盤になる概念を理解する。母性を取り巻く社会の現状と母子保健施策について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の基盤となる概念と社会の変遷と現状を説明することができる。 2. 妊婦体験を通して、母性看護の対象を理解し述べることができる。 3. 女性のライフサイクル各期における看護を説明することができる。 4. リプロダクティブ・ヘルスに関する看護について考えることができる。 5. 母性を取り巻く社会の現状と母子保健施策について説明することができる。 6. 学習の場に積極的に参加することができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	母性看護基盤となる概念 定義・対象	講義
2	2	愛着、母子相互作用、家族の発達、セクシュアリティ	講義
3	2	リプロダクティブ・ヘルスケア	講義
4	2	母性看護における倫理 ビデオ「出生前診断」	講義
5	2	母性を取り巻く社会の現状と母子保健施策 母子保健・統計・法律	講義
6	2	母性看護の対象理解 DVD「もうすぐ出産」	講義
7・8	4	妊婦体験	演習
9	2	女性のライフサイクル各期における 思春期の健康と看護	講義・演習
10	2	女性のライフサイクル各期における 成熟期の健康と看護	講義・演習
11	2	女性のライフサイクル各期における 更年期の健康と看護	講義・演習
12	2	女性のライフサイクル各期における 老年期の健康と看護	講義・演習
13	2	女性のライフサイクル各期における看護のまとめ	講義・演習
14	2	女性のライフサイクル各期をまたいだ健康問題	講義
15	2	母性看護に必要な看護技術 まとめ	講義

教科書・参考図書	「系統看護学講座 母性看護学① 母性看護学概論」医学書院
成績評価方法	試験80%、演習・課題20%・演習への積極的参加を含む
履修上の注意点	動画(ナーシングチャンネル)視聴あり。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
37年間病院にて看護師として勤務あり

専門分野Ⅱ

科目名	精神看護学概論			担当者	小野寺 友美		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	人間の精神発達をふまえ、すべてのライフサイクルにおける精神の健康と、それに影響を与える要因を理解することができる。精神保健医療福祉の変遷と法や施策を学ぶ。						
到達目標	1. 精神医療・看護の対象者について説明することができる。 2. 精神保健医療福祉の変遷と法や施策について説明することができる。 3. 精神保健の基本について説明することができる。 4. 精神(心)のとらえかた、ライフサイクルにおける精神の健康について考えることができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	精神看護学で学ぶこと	講義
2	2	精神のとらえかた①(脳の構造と認知機能)	講義
3	2	精神のとらえかた②(精神(心)の構造と働き)	講義
4	2	精神(心)の発達に関する主要な考え方	講義
5	2	家族と精神(心)の健康(理論家の考え方)	講義
6	2	暮らしの場と精神(心)の健康	講義
7	2	精神(心)の危機状況と精神保健(ストレスコーピング)	講義
8	2	現代社会と精神(心)の健康①GW	演習
9	2	現代社会と精神(心)の健康②GW	演習
10	2	現代社会と精神(心)の健康③GW発表	演習
11	2	現代社会と精神(心)の健康④GW発表・まとめ	演習
12	2	精神障がい者(当事者)の体験談	講義
13	2	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿①	講義
14	2	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿②	講義
15	2	国家試験に挑戦 全体のまとめ	講義

教科書・参考図書	「新体系看護学全書 精神看護学①精神看護学概論／精神保健」メヂカルフレンド社
成績評価方法	試験80%・まとめのレポート20%
履修上の注意点	私語厳禁

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
11年間病院にて保健師として勤務あり